

○今回のポイント

社会主義国家であった中国は計画経済から改革開放をすすめ、新興国として発展した。

日本と異なる政治・経済体制 (教科書 p.221~)

社会主義経済から市場経済へ

(1)1949年～1970年代末までの中国

- ・1949年：【① 中華人民共和国】成立

「社会主義体制」の選択 → 産業の国営化、【② 農業の集団化】 → 非効率性・生産意欲の低下

- ・1966～1976：【③ 文化大革命】

日中戦争、第二次世界大戦を経験し、国民党（資本主義陣営）との内戦に勝利した中国共産党。社会主義体制のもとで急進的な経済発展をねらうが、大失敗に終わりソ連とも対立してしまった。【④ 毛沢東】の権力には、陰りが見られるようになったのである。そのため毛沢東は巻き返しをはかり、文化大革命を発動する。文化大革命は、毛沢東を中心とする一派による大衆を巻き込んだ権力闘争で、社会主義の達成のためあらゆる古い価値観を破壊しようとして、政府要人の失脚や知識人の弾圧・追放を行った。

(2)1970年代末の経済転換

- ・1976年 毛沢東死亡、文化大革命終結



☆【⑤ 経済改革・対外開放】政策 (通称；改革開放)

- ・政治での【⑥ 共産党一党独裁】は維持
- ・国有企業の民営化、個人企業の創設、価格の自由化、不動産所有の容認など
- ・農村における【⑦ 人民公社】の解体、個人農家の生産開始
- ・個人企業や【⑧ 郷鎮企業】(市町村による企業)も公認

創意と努力によって自分のための利益をあげることができるようになった！！

☆参考：鄧小平の経済政策

- ・【⑨ 先富起来】…先に豊かに成れるものが豊かに成れ
- ・【⑩白猫黒猫論】…「白猫であれ黒猫であれ、鼠を捕るのが良い猫である」

社会主義だが・・・ものすごい経済格差！

(3)1980年代からの経済政策

- ・沿岸部に経済特区、経済開発区の設置 → 外国企業の積極的な受け入れ → 「世界の工場」！

☆【⑪ 経済特区】…外国資本や技術の導入を目的に経済的な優遇措置が与えられた中国領内の特別地域。1979年以降に設置された。

☆【⑫ 経済開発区】…対外経済自主権を持ち、知識集約型産業の誘致による国内波及効果を目指す経済地区。

内陸部で進む開発

- ・改革開放政策の弊害…都市と農村、沿海部と内陸部の経済格差

経済格差を縮めましょう



【⑬ 西部大開発】

- 四川省、陝西省や内モンゴル自治区の西側の、国土の7割に及ぶ地域を対象。
- 鉄道・道路やガスパイプライン・通信などの社会基盤を整備して産業を誘致する。
- 資金を集中的に投資。外国から資本や技術の導入を進める。
- チンハイ(青海)省とチベット自治区を結ぶ鉄道の建設
- 地元の資源をいかした工業立地 (沿海部は原材料を輸入して製品を輸出)

食生活にみる文化の多様性

(1)中国料理の主食の違い

- 東北地方・華北地方…小麦粉を使った饅頭、麺類、餃子
- 華中・華南地方…米飯が主食

(2)地方ごとの料理の違い

○北部

- ・北京料理は濃厚な味付け、【⑭ 北京ダック】は有名な高級料理
- ・しゃぶしゃぶの起源も華北

○東部

- ・【⑮ 上海料理】…豊富な魚介類を醤油や砂糖で甘辛く味付け

○南部

- ・【⑯ 広東料理】…豊富な材料を使い、持ち味をいかして淡泊に仕上げる。
- ・チャーシュー、シウマイ、酢豚の本場。ヤムチャ（中国茶を飲みながら点心を食べること）の発祥地。

○内陸の【⑰ 四川料理】

- ・辛味や薬味を効かせたものが多い。
- ・【⑱ マーボー豆腐】やザーサイは日本でも食される。



(3)食事傾向

- 中国では【⑲ 熱い料理】が好まれ、前菜以外には冷たい料理を出すことは少ない。
- 都市では朝食を自宅ではとらずに食堂や道端の屋台でおかゆや揚げパン、饅頭で済ませる。

都市生活の変化と課題

(1)1980年代からの中国人の暮らしぶりの変化

- ・車道を埋めていた自転車の減少 → 世界有数の自動車生産国
- ・古い住居の解体 → 高層ビル、個人向けマンション
- ・冷蔵庫・ビデオの保有
- ・貸電話屋の行列 → 携帯電話の所持
- ・個人経営の商店、飲食店、コンビニエンスストア、デパート
- ・【⑳ 人民服】から背広や婦人服へ
- ・北京北部や上海の【㉑ プートン地区】などの発展

(2)社会問題

- ・富裕層の暮らしが近代化する一方で、取り残された人との格差
- ・年金生活者の物価上昇に対する苦しみ
- ・退職者の面倒を見ていた国有企業 → 民営化して効率重視 → 人員整理 → 失業問題

